

生野照雄



事業の拡大を

質問

中山間地域総合整備事業は、市内西部地区（清川・緒方・朝地・大野）で実施されているが、全域で実施できないか。

答弁 産業経済部長

16年度より総事業費15億2100万円で実施しています。

東部地区（三重・千歳・犬飼）からも強い要望があり、西部地区の計画の見直しと併せて東部地区で調査・集落懇談会などを実施し、農村振興基金計画・事業実施計画書を作成します。

20年度から事業実施するため、県と協議を進めています。



▲8年連続日本一の大分県（東京・九段会館）

日本一の生産

質問

本市での全国乾椎茸品評会の開催誘致を考えてみてどうか。

答弁 市長

大分県は品質・収量とも日本一を誇っている椎茸産地です。その中核である本市を全国にアピールできる絶好の機会と捉え、品評会の開催実現に向けて検討します。

リフォームできないか

質問

長湯憩いの家は、昭和46年に増改築され、老朽化している。

施設の改築はできないか。

答弁 保健福祉部長

市社会福祉協議会に管理運営を委託しています。管理者と協議し、必要最小限の維持補修に努めます。

恵藤千代子



三重高跡地は

質問

学校法人後藤学園が、調理師、製菓衛生師の養成校などに活用の希望があるが、誘致についての市の考えは。

答弁 市長

県の財産であるので、県の動向を注視していきたい。後藤学園もひとつの案として考えています。地域活性化のため、より良い方向を検討していきたい。



▶樹齢100年のすずかけ（プラタナスがシンボルの三重高校）

産婦人科の再開は

（公立おがた総合病院）

質問

5月12日から休診しているが、今後の医師確保、診療体制は。

答弁 病院長

大分大学医学部医局、大分県福祉保健部医務課へ医師の斡旋をお願いしたが、人材ゼロということで再開の目途はたつていません。公立病院の役割のひとつである、母性教育の場が失われるということは、地域や県にとっても大きな問題です。

地域の力になる医師を育てていくためにも医師の供給・採用が課題です。

質問

常勤医師を確保できない場合の対応と影響は。

答弁 病院長

人間ドックは、三重町のS産婦人科の協力による医師派遣で、火・金曜の午前11時より、それ以外の日は、看護師による細胞診のみで対応。

収益については、推定減収6000万円だが、他科で増収を見込んでおり、財政的影響は、少ないと考えています。